

法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年8月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人
御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2021年7月11日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

人生は川に譬えられる。穏やかな時、荒れる時など、平坦ではない人生が川の姿と相似する。法華経の薬王品には妙法の功德を「渡りに船を得たるが如し」と示される。三世の生命の流れを大河に、成仏の境界を大船で悠々と渡る姿に譬えるのである。何もせずにその船を得ることはできない。大聖人は、「此の経を一文一句なりとも聴聞して神(たましい)にそめん人は、生死の大海を渡るべき船なり」(御書1555頁)と仰せである。たましい(神)とは天から賜った尊い心をいう。その尊い心に法門を染めることが仏道である。さらに大聖人は、妙法との出会いは宿縁であるゆえ、たとえ一句なりとも人に法門を語ることが「如来のつかい」(同頁)と仰せである。真の歓喜は妙法の船に導くことにある。大いに感謝の下種・折伏に邁進し、人を妙法への入信に導こう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その12)

創価学会の教義逸脱に対し、昭和53年6月19日、宗門より学会へ三十四箇条の質問書が提出された。同年6月29日、総本山において教師指導会が開催され、質問に対する学会からの回答が発表された。翌6月30日、学会は聖教新聞に宗門からの質問に対する回答を掲載した。これがいわゆる「6・30」である。ただしこの紙面では、宗務院からの質問は掲載されず、回答だけが「教学上の基本問題について」という形で掲載された。しかし、その内容は不明瞭で、会長である池田の責任を明らかにするものではなかった。したがって一般の会員には、この本質がまったく不明のままであった。そのためこの是正は基本路線となったが、学会組織の中では徹底されなかった。この展開により、同年11月の池田と幹部二千名による、通称「お詫び登山」と続く。

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(業とは何かについて)

そもそも「業」とはその人の行為をいい、仏法では三世にわたるものと説く。つまり現在の果は過去の因により、未来の果は現在の因によって決定されると説くのである。この法則の中で、我々が現在感じている差別をもたらした過去の原因、それが「宿業」といわれるものである。したがって宿業には善いものと悪いものがある。煩惱によって業が形成され苦が生じる。煩惱が正しく活用される人生であれば、その業により楽が生じる。日蓮大聖人は、生命に内在する煩惱を清らかにする方向を教える。けっして現在の結果の姿をあきらめさせる宿命論ではなく、過去の罪障消滅と現在・未来のための仏道を教えるのである。自身の生命の本源からなる業を受け止め、この煩惱と向き合う修行が必要である。妙法の功德は、善業・悪業ともに開花の種とする。お待ちしております。